

# 4年 絵はがきと切手

## 本時のねらい

友達からの絵はがきが料金不足だったことを知らせるかどうか悩むひろ子の気持ちを考えることを通して、友達のことを考え、友達と信頼し合おうとする心情を育てる。

## 導入

「みんなには、ずっと仲良しでいたいなあっていう友達っているかな。それはどんな友達かな。」

- ・困ったときに相談できる友達
- ・自分も友達も一緒にいて笑顔になれる

## 発問①（基本発問）

「正子さんから手紙をもらったとき、ひろ子はどんな気持ちになったでしょう。」

## 発問②（基本発問）

「母と兄の意見を聞いて、ひろ子はどんなことを考えたでしょう。」



ひろ子

### 母 お礼だけ言った方がいい

- ・せっかく絵はがきを送ってくれた正子さんの気持ちを傷つけるかも
- ・料金の事は言いつらい、嫌われちゃうかもしれない



まさ子

### 兄 料金不足を教えるべき

- ・他の人にも間違った切手で送ってしまうかもしれない
- ・知らないことは恥ずかしいことじゃない、正しいことを教えてあげるべき

## 発問③（中心発問）

迷っていたひろ子が「正子さんきつとわかってくれる」とすっきりした気持ちになりました。そのひろ子さんの心の動きについて考えてみましょう。

この授業から児童は、友達のことを考え、信じることの大切さに気付き、信じ合える友達関係を築きたいという心情を育てていくことができる。

○自分にとって大事にしたい友達の姿を思い浮かべることで、友達像を明確にし、これから友達のことについて考えを深めていくという学習への意欲が高まる。

○仲良しの友達（感動を分かち合える、お互いの家に泊まるほどの関係であることをしっかりと押さえる）からの手紙を読んで、懐かしく嬉しいひろ子の気持ちに共感する。

○母の言うことも兄の言うことも正子さんを思ってこそその考えなので、どちらがいいともいえない、決められないひろ子の気持ちに共感する。  
○二者の考えについてグループで役割演技をする。

「お礼だけ言った方がいいよ。  
なぜなら・・・」  
「料金不足を教えた方がいいよ。  
なぜなら・・・」  
グループで出された「なぜなら」の部分全体で共有する。

